

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社 発行人 滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポルビル九〇四 電話(03)3377-4649

振替 東京0158431 労金 東京労金本店No1154163

FAX(03)3299-5367

購読料 月額600円 6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

兵庫県議、神戸市議選は未来をつくる 2
参院選で大敗すれば村山内閣は退陣か 3

——山花氏等の離党組は参院選後をねらう——

資料1 情勢と当面の活動について〔護憲ネット〕 6

資料2 社会党臨時大会議案へのコメント〔護憲ネット〕 7

◇国鉄「分割・民営化」から九年めの春◇

父の頑張りをバネに頑張る 藤保美香 5

——統一地方選総括と課題 (二)——

浮動票はどういう意識をもつか 9

——統一地方選総括と課題 (二)——

勝利するぞ! 「争議組合・団結集会」 12

——討議・運動のレベル高めたい——

◇投稿◇ 差別、宗教、オウム 14

読者からのおたより 15 「山びこのうた」のすすめ 16

◇好評発売中 上野建一著 社会通信刊◇

政界再編後を読む 護憲の旗を掲げて

A6判上製、二百頁、千五百円(千三百十円)

旬刊 社会通信

NO. 605

一九九五年六月二日

一九九五年六月二日発行
(毎月一日・二日・三日三回発行)

■巻頭言■ 兵庫県議、神戸市議選は未来をつくる

仮設住宅の人々を訪ねて

五月六日に開催された「今こそ護憲全国集会」と連動した行動として、神戸市内の各地支部ごとに交流団の受け入れ態勢をとり、県外からの参加者は二名から三名で振り分けられ各地区の状況報告を受けた後、交流し民泊した。

神戸は阪神淡路大震災のため統一自治体選挙を六月二日（一日投票日）から行うことになっており、選挙戦をたたかっている中で受け入れであった。私を受け入れてくれた北総支部では、翌七日に青木昭憲県会議員候補・原和美市会議員候補と共に一四名が仮設住宅への面接をおこなった。北区における状況（住宅の倒壊状況、罹災証明発行件数、仮設住宅建設戸数および入居状況、入居者の不安・不満、行政の対応）などをきめ細かく認識しながら、今回の取り組みの課題を①避難者の声を率直に聞く、②生活情報の状況把握、③自治会などの自主組織をつくる、④集会所の設置においた。

北区の仮設住宅は四月五日の入居から一か月がたち、回りの状況も見え不満や改善点ではじめている時期で、行政の立ち遅れからの不満があり、住宅ローンがかええ生活不安や解雇され収入が絶たれたり、生活が困難であり元の避難所に戻るケースもある。

行政の対応は、神戸市分として五千六百戸の仮設住宅の追加発注をしているが、厚生省は県に追加発注の前提として空き家の解消をせまっている。更に、鍵渡しから二週間以内に入居するように指導し、入居の意志がない場合には入居を取り消し常時募集に切り替えるという。避難所には追い出しが強行されることになり、避難者にたいする意向調査をおこなう中で空き家への入居を促進することになる。避難所では市職員では手が回らず小学校の教職員が避難者（現在も五万人）の対応や、災害の認定業務に追われている。生活保護の運用の引き締めもはじまっている。失業者保険も百日がたち切れるころ。全国から集められた義援金は、二四万円が支給されているが二回目の支給を望んでいる。

私が訪ねた北区藤原台中町の仮設住宅での面接の状況を報告すると、東灘区から入居した五人家族は、新築して三ヶ月目で被災し自宅は倒壊、ローンだけが残りあらたな復興対策援助金も借りることができない。店はそれほど被害はなかったが、子供の学校のことを考えて転居した。復興も都市計画図面（青写真）が出てこないのが各地に点在している人と話し合うこともできず、さらに道路や公園に土地が取られる者もでくるので、住居を建てるとしても来年の夏ごろになるのではないかと言っている。

仮設住宅も六ヶ月さらに六ヶ月の更新（一年）で退去しなければならぬが、公営住宅の建設も新聞報道では入居できるまで三年かかるので、仮設住宅にしがみついているなければならないと訴えていた。仮設住宅は、二間に台所、ユニットバスにトイレがついており年輩者はバス・トイレが一所になっていて戸惑っている。杭を打ちつけた上に住宅が建っているの、強風が吹くと浮き上がり、屋根が飛んでしまうような気がしたと言っていた。交通の便も利用する電車も一社だけで高額負担（山陽神鉄から神戸交通新神戸まで七四〇円）が強いられる。生活環境、商店街や学校、病院も近くにあるのかと言うことも入居できるか否かになってくる。仮設住宅には戸数の半分程度の入居状況であった。

市民の立場に立った復興が、市民が立ち上がるなかで人間らしい権利が主張できる街づくり・市政づくりができるためにも本誌の読者が、神戸・兵庫の知人を紹介されることを願ってやまない。

（兼子）

※連絡先 兵庫県中央区北長狭通四一七一護憲社会党（電〇七八一三三三二八四七二）

参院選で大敗すれば村山内閣は退陣か

——山花氏等の離党組は参院選後をねらう——

「護憲ネット」第二回総会開く

社会党の再生めざして、基本政策を守り勤労者の党として大衆運動に取り組むために結成された護憲ネットは、五月十三日第二回総会を東京で開いた。一昨年十一月の第一回総会前夜から小選挙区比例代表並立制阻止の運動と取組み、参院段階では一旦否決することに成功したが、山花と一・一ラインは自民党と談合し強引にこれを成立させた。さらに一・一ラインの新保守主義的政治策動は、予想しなかった自社さ連立内閣を生み出し、社会党の村山首相が出現した。事実上の自民党の復権であり、政・財・官ゆ着態勢の再現である村山内閣の「限界」は最初から明らかであった。村山首相はその「限界」をさらに狭いものにした。それは自衛隊合憲、安保堅持などの基本政策の転換であったし、政権を支える第一の柱である社会党の支持基盤を弱体化させた。一方統一選後の自民党の大勢は、村山内閣の崩壊は近いと見ており、ポスト村山内閣をにらみ、自民単独内閣への思惑を先行させている。

長期化し深刻性を加えている日本経済の不況は失業者を増大させ、さらに社会全般に不安を拡大している。事件・犯罪の頻発も経済不況をはじめとする日本資本主義体制の矛盾から来ている。そのため、マスコミの煽動もあって、安定した強力政治（安定した政権）を求める世論が醸成されつつある。このような政治情勢下に行なわれた統一自治体選挙は全国的には保守勢力を勝たせ、社会党を大敗に追い込んだ。社会党の大敗は予想されたことではあったが、これに対する有効な対策はなされなかった。それどころか、久保書記長や山花前委員長などの右派解党派は、新党論議に明け暮れており、社会党支持者の党不信を増幅させた。その後の山花氏等七人の国会議員の離党もあり、マスコミは「社会党の流れ解散」が始まったと論評している。

護憲ネットの第二回総会は、このような政治情勢下にある社会党の現状を次のように分析している（資料1参照）。

- ① 勤労者の党としての組織体制と諸活動を統一自治体選挙の結果は大きく後退させた。
- ② 参院選に総力を結集すべきときに、新党論議によって、結集力を弱め、惰性で参院選を迎えようとしており、惨敗の方向にある。
- ③ 社会党と共に生活と権利を守る闘いを進めている労働組合の活動家層は、社会党の変貌に大きく失望し、社会党への不信をつのらせ、無気力感におちいつている。そのため参院選での活動力を失い、大敗北必至の状況となっている。
- ④ 久保書記長の提唱した「民主主義リベラル」新党は一応社会党執行部の賛同をえているが、リベラル結果の見通しがなく、党内すら半数以上の反発を招いており、したがって理念も実現性も欠いている。
- ⑤ それにもかかわらず、社会党臨時全国大会を五月二十七日に開き、参院選後の新党の結成を決定し、新党の理念だという「九五宣言」（綱領となる）をも承認させようとしている。この全国大会には開催そのものに反対があり、強行すれば混乱はまぬがれない。
- ⑥ 参院選の大敗と新党との関連で党分裂となれば、村山内閣の退陣は当然のこととなりかねない。

以上の情勢分析の結果、護憲ネットは、当面次のように活動することを大要次のように申し合わせている。

その第一は、このままで社会党を護憲の党、勤労者の党として再生させることは不可能になったと認識して、今後の対応を考えること。

第二には、党の臨時大会で大筋右派と執行部の考え方で新党と九五宣言が決まれば、護憲ネットは「護憲社会党再建準備会」を結成する。

第三には、準備会の成功と発展のために、各級議員、学者文化人、労働運動代表、各地代表、女性代表などによる「懇談会」を開き、党再建のための諸政策、組織方針、参院選対策を協議すること。

第四に、参院選後は「週刊新聞」の発行を行い、全国の協力者と意思統一、情報交流などをはかる。

この他にも当面の活動を決めているが、問題は党大会で解党・新党結成の方針が明確になったときの「再建準備会」、そして新党に社会党が丸ごと方針になったときにこれに對抗して、「護憲社会党」を結成できるよう、全国的に同志の結集をはかるかどうかである。社会党が解党して新党（リベラルの）へ走るとき（参院選の大敗北は新党よりも流れ解散の可能性もあるが）、護憲ネットは「護憲社会党」への結集をはかり、断じて新党・第三保守党へは行かないという方針である。この方針は、昨年の全国代表者会議で申し合わせたもので、今度の総会で一層明確に打ち出されている。

第五には七月の参院選対策についてであるが、①東京と兵庫の選挙区では「護憲リベラル」の候補を支援する。②社会党の護憲派候補のいる選挙区については、その必勝をめざす。③比例区については、臨時大会の結果と護憲諸派の結集を見極め、かつて社会党の会派にあつて小選挙区制に反対した人々を含めて、護憲派候補の必勝をめざすこと。この場合には「護憲ネット」からも候補を出すように検討する（護憲諸派は現在「平和市民」という政治団体をつくり参院選をたたかおうとしている。結成は五月二十八日という）。

流れ解散といわれる社会党風景

ついに新党崩れハムレットの山花貞夫代議士が社会党を一人で離れた。昨年から「離党して新党だ」といい続けてきたのだから「立派なものである。この人の悲劇は自ら積極的に推進した小選挙区制によって、自らの政治的基盤を崩壊させたことである。しかも山花氏をおだてて新党へ突っ走っていた全通や全電通に梯子をはずされたことである。それにしても無責任なのは親分の田辺誠元委員長である。山花氏に対して「いま離党しても犬死にだ」といっている。田辺氏の他にも佐藤観樹、関山信之、赤松広隆、中村正男、左近正男、久保亘などの議員はあれだけ党を混乱させ、選挙を敗北させたのに一べんの反省もないのである。

山花氏等は、社会党の参院選惨敗後に一旗あげようということらしいが、横路ブロック新党論と合同できるか、どこまで流されるのか。すでに議員失格である。

久保社書記長は、五月十六日の企画調整会議で、山花氏等七議員が提出した離党届の取り扱いについて時間稼ぎの案を出している。彼等の離党を党大会後にしようという考え方であるからその間、所属都県本部で検討してもらおうというもので、かかってないやり方である。党大会に久保書記長は、その活動方針のなかで「新党がらみの離党者については『敵視せず』、したがって今までのように除名しないという策動をはじめている。

一方七人（参院本岡氏ら二人、衆五人）の会派離脱届については早速認めている。この

ねらいは久保氏らがやろうとしている新党に参院選後に合流させようというもので極右派勢力を温存しようということであろう。「民主リベラル新党」は統一自治体選の敗北で、いよいよ展望のないものになった。新党をつくろうというエネルギーが山花氏等の離党によってさらに減少させられ、さきげも動こうとしていない。期待した学者文化人、専門家、女性活動家なども今さら新党とは何ごとかと反発している。

労働組合のなかも、あまりにも社会党の支持率が後退しているので、積極的な新党ブームはない。それどころか無党派層が増大し、七月の参院選を「なぜ社会党なのか」と逆に反発されている。春闘の敗北、人べらし合理化の進行、失業への不安などによって労働組合への求心力を失い、組合無用論が大民間労組を中心に広まっている。

社会党をとりまく状況はまさに流れ解散の方向にある。このなかでの護憲社会党の再建は党分裂の事態をも覚悟しなければならず、困難性はあるが、いよいよ勤労大衆のなかで頑張ることである。

◇国鉄「分割・民営化」から九年目の春◇

父の頑張りをバネに頑張る

大学に進む子供から 藤保美香

私が小学校の時、父に解雇通知が渡されました。あれからもう八年も過ぎました。もとの仕事に戻る為に頑張り続ける父に学び、私はこの八年間、勉強に部活動の羽球、そして家事手伝いが私のできる事だと思い、頑張ってきました。その努力と家族の支えで、大学に合格できたのだと思います。

今振り返ると、一生懸命に駅で働いていた父の制服姿が、懐かしく思えます。時々、妹と駅へお弁当を届けに行くと、チョコレートを買ってくれました。私と妹は、その時の父の笑顔が大好きでした。父のまじめに働く姿勢は、多くのお客からのこもった手紙に、よく表れていました。

そんな父や職場の仲間達が、なぜ不当な差別を受け解雇されなければならないのか、私には理解できず、明るい毎日の生活は、悲しみと悔しさと不安で涙がたえませんでした。クラスの友達が次々に転校し、近所の人達も転動して行きました。それから、私と妹は留守番することが増え寂しかった事や、「お菓子もたくさん食べないようにしようね。」と、話し合った事を思い出すと、今でも涙があふれてきます。父達が闘争しながら、九州へ連れて行ってもらった事もありました。博多駅前でのチラシ配布では、少数の人にしか受けとってもらえず悲しい思いをしましたが、地元の闘争団の人達や家族と接し、まだここにも共に闘う仲間がいて、力づけられました。高校受験の時には、父の仲間から合格祈願のお守りが送られてきて、うれしかった事も思い出します。

私たちの生活の為に、四年前父は、「鎌倉の美鈴」へ羊羹の修行に行き、「J.Rに戻せ」の願いを込めた「音威子府羊羹」を見事に作り上げ、現在はその羊羹を売りに、長期出張をするようになりました。

今、大学の道へ進む事ができるのは、両親と共に闘う仲間の皆さんのおかげだと、心から感謝しています。家から離れて一人暮らしの生活ですが、今まで同様、父の頑張りをバネに、私も教養を身につけるために勉強に励み、大学で頑張りたいと思います。

両親をはじめ、闘争団の皆さんの健康を願ひ、これからの生活へ、スタートしたいと思っています。

資料1 情勢と当面の活動について（「護憲ネット」九五・五・一三）

「護憲社会党」 再建に全力つくす

一、社会党をとりまく情勢

(1) 統一自治体選挙の大敗によって、勤労者の党としての組織体制は存在意義を問われるほどに弱体化した。日常活動の先頭に立つべき自治体議員の不足は、諸活動を一層後退させ、党再建の意欲も失わせている。

(2) 本来ならば、敗北の総括の上に、間近かに迫った参院選に総力を結集すべきであるのに、総括どころか反省の一片もなく、新党論議に明け暮れている。したがって党としての規律も結集もなく、ただただ惰性で参院選を迎えようとしている。この中からは展望は見えず、大敗北は必死とみられている。

(3) 統一自治体選挙の惨敗を若干総括すれば、大要次のように見るべきであろう。

① 安易な保守勢力との連立によって、党の主体性を失い、いわゆる社会党らしさを完全に失ったこと。

② 改憲につながる小選挙区並立制を受け入れてしまったこと、廃止を公約した消費税にたいして、こともあろうに税率の引上げに賛成したこと（これを社会党首班内閣の手で行った）、さらに基本政策を転換してしまったことは、国民の信頼を裏切り、第三の保守政党に転落させた。

③ 久保書記長の、理念も現実性もない「民主主義リベラル新党」を村山執行部は簡単に受入れ、山花新党騒動を野放しにしていた。統一自治体選挙の事前準備期間の全てといえるくらい、毎日のようにマスコミは社会党の解体、分裂問題を報道し続けた。かなりの党员と多くの支持者は当然いやげがさして離れていった。

④ 厳しく生活と権利を守る闘いを進めている労働組合と組合員は、支持し一体となつて闘う立場にある社会党の変貌した姿に失望し、無気力感を増大させている。そこからは選挙闘争に力がいいるわけがない。

⑤ 一部の労働組合幹部の党介入と党幹部の迎合は、社会党は労働組合だけを大切にする党だという印象を国民に与えた。

二、「再生」は不可能になった社会党

(1) 五月末の全国大会で、参院選後に社会党の解体・新党へのプログラムを決め、新党宣言である「九五宣言」をも承認しようとしている。社会党支持の大単産の大部分は、参院選後の新党づくりに賛同している。

(2) 参院選で大敗した場合（自民党の独り勝ちが予想されている）、仮に新党化しなくとも、流れ解散の状態となり、総選挙前に社会党議員は自民と新進の両党に引き込まれ、事実上は吸収される状況となろう。

(3) 村山内閣は参院選後はいよいよ基盤がゆるみ、いつまでもつかということになる。何のために社会党は連立内閣に参加したのか、入閣したからには少なくとも何をなすことが必要であったか、という反省が生まれる前に党は解消することになりかねない。

(4) 総選挙後は自民党単独政権かまたは総保守の大政翼賛体制になりかねない。財界は憲法の改悪を日程にのぼらせる時期である。

(5) われわれの総力をあげたたたかいかにより、国民の政治意識も一定の高揚をみせ、「護憲社会党」の展望が生まれよう。

三、護憲ネットの当面の活動

(1) 社会党がこのままで再生は不可能になった現在、ネットは護憲社会党への再編による再建にとりかかるときであるとの意志統一をはかる。

(2) 五月の社会党大会を見極めながら、次のように対処する。

① 党大会で大筋議案通りに決定されるならば、当日大会終了直後(五月二七日午後五時から)、昨年の全国代表者会議の申し合わせにより、「護憲社会党再建準備会」発足のための集会を開く。

② 準備会の成功と発展のために、各級議員、学者文化人、労働運動代表、各地代表、女性代表などによる「護憲の社会党を再建するための懇談会」を開く。そこで「護憲の社会党再建宣言草案」の修正・補強や、六月の兵庫自治体選挙の支援に必要な政策の策定・発表など、必要な課題にとりくむ。

③ パンフ「護憲の社会党再建宣言」などを活用しながら、全国各地で仲間づくりと、準備会のための組織づくりを早急に開始する。

(3) 参院選後、週刊新聞の発行を行う。

(4) 全国的に組織の拡大強化をはかる。中央事務局の強化のため、専従体制の確立、役員体制の強化など、指導力の充実をめざす。

(5) 六月にずれた兵庫の自治体選挙は、全国的な支援で護憲社会党の必勝をめざす。

(6) 政治大学(月一回)を充実させる。

(7) 以上のために、パンフ「護憲の社会党再建宣言」を一層多くの人々に拡げ活用するとともに、さらに「護憲」の意味を現実の政治との関連で明確にするために必要であれば新たなパンフを発行する。

四、参院選闘争方針

(1) 東京と兵庫では護憲リベラルの候補の必勝をめざす。

(2) 社会党の護憲派候補のいる選挙区については、その必勝をめざす。

(3) 他の選挙区でも護憲派候補の擁立をはかる。

(4) 比例区では、かつて社会党の会派にあって小選挙区並立制に反対した人々も含めて、護憲派候補の拡充と必勝をめざす。

資料2 社会党臨時大会議案「当面の活動計画」へのコメント(「護憲ネット」九五・三・一三)

社会党「解党」を提案

社会党の解散方針を決める重大な全国大会にもかかわらず、その議案は規約が定める一ヶ月前に下ろされることなく、ようやく五月十一日の執行委員会で決定されています。全党内の議論の条件を無視・排除しての召集です。指摘され続けていた党内民主主義の否

定は、これまた限度を越えたと云わざるを得ません。

〔参考〕規約第四二条「中央執行委員会が提出する全国大会の議案は、大会の一ヶ月以前に原本部に到着するよう送付されなければならない。」

内容的には「九五五年宣言案」に含まれていない点に限れば、以下のような問題がある。

1—(4)項のへ内は、十日の企画調整会議の原案が十一日の三役懇と中執で「首相支持派」の意見として挿入されたもの。これによって消費税率引き上げ、年金改悪等まで村山内閣の「歴史的な成果」とされてしまった。

1—(5)項では「国会決議」という標題を使っており、「不戦決議」は消えた。四月二十五日連立与党戦後五〇年問題プロジェクトで、実は社会党も「不戦」をはずすことで合意してしまったのだ。これは重大な問題を含む。自民党（新進党も）が「不戦」をさらうのは、戦争する権利は国家として不可欠の権利として留保しておかねばならぬとの立場にたっているからである。

1—(6)では「九五五年宣言」の大会承認によって、綱領的文書「新宣言」は歴史的文書となります」と明記している。これは逆に「九五五年宣言」は綱領的文書だということである。にもかかわらず、臨時大会での扱いは中執では決まらず、大会運営委員会に一任となった。「書記長支持派」が綱領的文書だから三分の二の採決を主張したのに対し、「首相支持派」が過半数の選択か活動方針と一括で承認を求めるべきだと主張してまとまらなかつたからと伝えられる。

しかし、いずれにせよ「新宣言」は歴史的文書」ということは決められるのだから、同じことであり、社会党の基本政策の転換は「村山政権下の政策展開」という限定されたものではなく、完全に改憲容認新党・第三保守党として固定されることになる。

3—(3)項で、「政党の合体」ではなく「社会的諸勢力との共同作業を優先」することを打ち出したのは、「さきがけ」などとの関係が不調でも、新党にできるだけ早く移行することを想定しているものと思われる。

また、「政策の方向性で一致する社会党離党者を含む国会議員の参加を求めます」と明記したのは、除名処分となったり、第三保守党の「方向性」で一致しない人は排除される。

なお、四月二十七日、社会党は小森龍邦（会派離脱届を出していた）、西岡瑠璃子（離党届を出していた）の両氏を除名した。しかし北村、前畑、山花さらに意思表示した本岡、堀込、後藤、土肥の各氏は「規律案件」にすらかけられそうもない。

「方向性で一致する」離党者への「寛容」な扱いは、3—(7)でも一項おこされている。

3—(4)項で、「九五五年宣言」は「新党準備委」に提案されるものなのだから、準備委の議論でさらに第三保守党にふさわしいものへと余地を残している。「新党」の党名、理念、政策目標、党首の選出（候補を決めておく？）などでは、準備委（二〇—三〇人）で決められる。社会党員の意志がそこに反映される道は示されていない。こうして党員は「解党大会」をむかえることとなる。

浮動票はどういう意識をもつか

—統一地方選総括と課題(二)—

旧自民党支持基盤の崩壊

司会 政治、社会、その他様々な激動の背後に、経済構造の変化にとまなう、大きな階級的变化があることか。

B そう従来、自民党最大の支持基盤だった農林漁業、小零細企業主、いわゆる年金生活者層はきわめて激しい生活変化に見舞われている。コメの自由化は農林漁業を直撃し、この分野の有権者は高齢化の一途を辿っている。小零細企業主は最近の商店街の変化にみられるように、いわゆる「二十四時間ストア」に転換を余儀なくされるか、規制緩和という新たな「体制的合理化」で廃業が加速されている。街の八百屋さん、床屋さん、魚屋さん、は壊滅状況といっている。

さらに高齢社会に入った日本で土地税制、消費税、貧弱な福祉制度が、利子率1%のマインナス利子が年金生活者の生活を直撃し、激しい政治不信の土壌をつくっている。

C 旧自民最大の支持基盤は独占的大企業を中心とする政・財・官のゆ着構造にあったのではないか。

B 権力的にはそうだ。彼らを頂点にその政治支配を実現するため、いわゆる「中間階級」が動員されてきた。

自民が圧倒的優位を誇ったのが、北海道はちょっと違うが、東北、北陸、中国、四国、九州のいわゆる「農村地域」で、東京圏、近畿圏ではその支配は崩れていた。だから、自民党は階級的に相対立する階級がモザイク的に併存する政党だったわけだ。

A 農村党が自民と社会。大都市党が共産、公明ともいえる。民社は企業の別動隊といっている。たとえば愛知、トヨタのように。

B 以上のように、自民党支持基盤はほぼ掘りくずされたわけで、総資本の立場からすれば、旧来の自民一党支配体制に代わる、新たな政治的枠組みづくりが問われることになった。

反自民票二千万票が行き場を喪失

司会 政党支持なし層の拡大の根本原因がそこにあるというわけね。

B そう思う。

司会 支持なし層は五〇%を超える。他に原因はないのか。

A まずリクルートから佐川、そして今日では東京協和・安全信組にみられる腐敗政治。自民が利権集団であることはだれも知っていることだ。入学、就職一つとってもそのルートへの口添えが値千金となることは、程度の差はあれ、だれも経験していることだ。しかし、金丸スキャンダルが「政・財・官」ゆ着構造を直撃し、自立心の強い若者がまず自民党からサヨナラした。

二つは、消費税導入が政治を家庭にもちこんだ。スキャンダルと相まってね。女性は平和志向が強く、農業汚染等家族の健康にきわめて熱心で男性よりこの面でははるかに視野

が広い。しかもけつべきだから、彼女たちも自民党は「チョット」となった。
三つは、零細企業主、年金生活者、農林漁業主はBさんのいうとおりです。
こうして、これら旧自民支持者層が自民離れを起こし、無党派層、いわゆる支持なし層となった。

四つは、旧社会党支持者の動向だ。連立政権時代まで、社会党は自民批判票を吸収する柔軟性があった。綱領レベルでは反独占・反自民の具体的政策としてあった護憲・非武装中立に象徴される反権力、弱い者の味方というイメージだった。

この社会党の持味が田辺、山花そして村山委員長ですっかりこわされてしまった。土井委員長時代に大躍進した約束をすべて放り投げてしまったのだから。土井委員長時代、反自民票が二千万票にも上ったわけで、社会党の崩壊とともに、従来の強い社会党票一千万票と反自民票一千万票、もっと強くいえば従来の自民票がゆき場をなくしてしまった。これが支持なし層増大のもっとも大きな要因で五〇%強ともいえる。

五つは、従来の共産党支持票のゆくえだ。Aさんが統一地方選での共産党のたたかいぶりを報告されたが、黨員はともかくこの党の支持層は地方レベルではその献身性を票をつなぎとめてはいるが、国政レベルでは東京、大阪の知事選にも明らかになように浮動化、支持なし化している。

公明は宗教政党だし、民社は企業の支持でかろうじて存続しているといっている状況だから、浮動票をひきつける力も魅力もない。

求心力なくす労働組合

司会 なるほど、各政党の支持者がいつせいに「支持離れ」をおこしているわけだ。ところで労働組合はどうですか。

A 組合員は労組中央幹部をまったく信頼しておりません。現在の特徴は中央への不信からしだいに中間組織に不信が拡大している状況で、企業主義に完全に埋没した組合以外は統制がきかない、つまり〇〇に投票しろといっても、組合員がいうことをきかないという状況です。地方選レベルでは候補との直接的つながりで結びついていますが、国政レベルでは膨大な支持なし層を形づくっているのではないのでしょうか。

司会 支持なし層はきわめて多面的につくられてるわけだ。まず階級構成の激動、多様なかたちでの政治不信、労組の無力化といったように。

田さんしつかりしてよ

私も友人から聞いてビックリしたのだが、護憲リベラル代表の田さんは東京、大阪で意地悪バアさんとパンパカパーンのおじさんが通つたのは浮動層のため、だから浮動層に依頼する選挙しなければと「護憲じゃたかえない」といつているって。

D そうらしいね。田さんらしいと思う。マスコミ人で時代の流行に弱いから。

B もっとキツクいえば立脚軸がない。

A 田さんは東京地方区で七月参院選に出るんだろう。東京選挙区はどうなってるの。

D 目下、立候補を表明しているのは自民一、共産一、公明一、それに護憲リベラルの田さんの四人だが、噂によればさきがけから紋次郎君こと中村敦夫、新進から前出雲市長の岩國建、それに「ミスター税」の野末陳平が出るらしい。

東京は四人区、田さん楽な選挙じゃないよ。浮動票ねらって無所属を名乗る候補がさらに名乗りを上げないともかぎらないからね。

A 「護憲」を最大限に掲げた方がいいとぼくなんか思うけど。

D 私も同意見だが、田さんはそうじゃない。「平和・市民」の参院選確認団体（政党）でたかうことが決まったようだ。

A 「確認団体」っていうけど、現公選法によれば政党要件みたした政治団体でない、選挙運動できないはずだ。護憲リベラルの名称を変更するの。

D そうらしい。「平和・市民」を政党化することだ。

C 現場は混乱するよ。中央の中心メンバーは毎日のように話し合い、それでいい、ということだろうが、護憲リベラルは統一地方選をはじめてたかかったのだろう。ようやく、護憲リベラルは田さんたちの党かとの認識が生まれ、これから成長期を迎えようというときに、護憲リベラル改ため「平和・市民」じゃ支持者も戸惑うんじゃない。そうならないことを願うけどね。

都市と農村への両極分解

司会 浮動票、支持なし層の見方とも関連するが、東京、大阪で地殻変動が起き、神奈川でも既成政党的の相乗り候補に強い批判が表明された。ところが、善戦するのはといわれた北海道では横路氏の後継者がダブルスコア以上で大勝利した。この背景はどこにあるのか。

A 当初、北海道では女性候補が善戦するのではといわれた。ところが勝負にならなかった。

彼女はこの間、四回も政党を変えたよね。共産党から社会党へ、社会党を批判し小沢君と仲良くなるかと思えば今度は自民党という具合に。政治家としてのモラルが問われた。これが一つ。さらに彼女をかついだのが、ロッキード有罪組の佐藤孝行君だから始末が悪い。政治不信に輪をかけるようなものだ。これじゃ、客観的に見て勝てるわけがない。さらに、業者団体は横路後継候補に旧総評以上の集票活動をしたということだ。

B 私思うんだけど、今度の知事、県議選では浮動票、支持なし票に両極分解が起きたように思う。

東京、大阪では支持なし層は既成政党的の相乗り候補を拒否したよね。ところが北海道ではAさんの指摘のように既成政党的の相乗り候補を支持した。大都市圏と地方が相対立し始めたということだと思おう。

大都市圏では既成政党的の利権の分け前にあずかれるのはごくわずか、ところが地方では利権、公共投資等に生活がかかっている。北海道では道、あるいは開発庁、政府予算なしにくらしが成り立たないところまで来ているのではないか。だから浮動票といっても都市と農村じゃまったくちがう。大都市の支持なし層は自立した個人、市民、労働者だから、これは今度の政治教育のあり方いかんで強くなる。しかし、地方では権力の分け前にあずかからねば生きてゆけない。この矛盾はデカイよ。

司会 そのほがまで社会党は七転八倒してるとわね。今のままでは未来はないわけで、「護憲社会党」の旗印を鮮明にし、進路を切り拓く他ない。

(つづく)

勝利するぞ！「争議組合・団結集会」

——討議、運動のレベルを高めたい——

八王子地区での争議団交流会の報告です。つねに首切りの不安と向き合いながら、支援してくれる地域の仲間とともに活動している内容でした。「運動のおもしろさ」を語った者もいれば、「解雇されて」団結の大切さを知った」者など短い報告時間ではありましたが、想いが伝わってきました。

ここで総評解体・地区労解体のなかで、ほんらい中小・未組織労働者の争議を支援すべき機関や組織は自己保身にひたはしり、企業内労働運動に埋没しており勤労者の権利や要求を実現する状況からかけ離れています。当然に組合から労働者は離れ、意識も低下し、リストラ攻撃のなかで頼れるのは自らの知恵と身体でしかありません。

解雇され、差別されている労働者がわらにもすがするような気持ちで駆け込む先は、労働弁護団や管理職ユニオン、縮小しながらも活動をつづけている地区労運動を継承している組織になっています。印象に残った発言を紹介します。

子供の前でおかしいことはさせない（八王子教職員組合）

「日の丸」を下ろしたことで昨年処分されました。子供がいつている学校で日の丸が上がっていますか。どうでもいいではないかと思われの方が多いと思いますが、五年前に文部省が卒業式・入学式に「日の丸を上げる、君が代を歌え」という命令をだしました。それまで、八王子では半分くらいの小中学校では日の丸は上げていませんでした。「君が代」は、ほとんど歌っていませんでした。中学校では、ほとんど日の丸は上げていましたが、君が代は歌っていませんでした。戦争責任、職場の民主主義の問題などで上げさせてこなかったのですが、今では君が代はすべての学校で歌わされています。

ほとんどの学校が「君が代・日の丸」を実施しているなかで、都教育委員会・市教育委員会がやっきになっていまして、教職員が反対しているなかで校長が上げた。上げるか上げないかは問題ではないと思っているが、日の丸・君が代を教育問題として考えていこうとしてやってきたのですが、校長が上げるのをほとんどの生徒が反対したのです。子供の前でおかしいことをやらせるわけにはいかないと思い、下ろしました。そこで処分ということで減給処分になりました、いま人事委員会や都教育委員会は、教育問題だとは言わない。「愛国心を育てるために日の丸、君が代を歌わせる」というところは一言も出てこない。

いじめ社会にしてものいわぬ労働者を作ることだと思う。日の丸・君が代問題では、市教育委員会のメンツもなく処分をおこない、今度は免職も出るのはないかと思っています。正当性は主張していききたいと思います。

二〇年の争議でもおもしろさ味わう（トッパンムーア労働組合）

解雇され、組合をつくり一八年、地域のみなさんの支援のおかげで解決ができた。

二〇年近くこの世界で飯を食べてきたので、この世界のおもしろさを味わっちゃっていますから、このままやっていくしかないと思っています。解雇は解決したがトッパンはこの企業よりも先行してリストラが進んでいますから、これから職場は厳しくなり四〇代中

間は首を切られる対象になってきている。賃金も上がらない。人間らしい行き方を追求してきた組合員がもう一度試験にさらされると思うが、これからも頑張っていきたい。

要求する労働者は勤務不良者（全国一般東京労働組合富国生命分会）

富国生命八王子支社において職業病になり、会社に責任を取らせるためにたたかっています。ひどい労務管理がおこなわれサービス残業の強制、休暇のとりあげ、女性に対してはお茶汲み強制があり、それに対して異議申立をしてきた私に対していやがらせで三人分の仕事をさせたり、殴る蹴るという暴力行為までも起こっています。ユニオンショップ制の組合に相談してもなんの解決にもいたっていない。

そこで全国一般という一人で入れる組合に加入して富国生命分会をつくり、責任を追及しています。ケイワンになり二年近く休んでいたが、職業病あつかいにならず私傷病あつかいで賃金カットされながら、苦しい生活のなかで治療をつづけ会社に戻る事ができず、せつかく会社に戻ったのだから二度と職業病の起きない職場にしようとして団体交渉で改善要求をはじめたところ、「改善要求をするような労働者は通常勤務ができるとは認めない」という理屈で休職処分、賃金がないので治療もできず、会社に戻るまでに生活もできない状態に置かれています。

八王子労働基準監督署は労災と認めましたが、保険会社である富国生命会社が認めない。休職処分も裁判所では「このような理由のない求職は無効である」との決定をだしているが、三回も繰り返されています。仮処分が終わり本訴訟でも勝利しました。現在は高裁に会社はもちこんでいます。

倒産争議でなにかを得たい（全国一般東京労組グラフィカ分会）

コンピューターグラフィックを販売・製造する会社でした。昨年三月にグラフィカは倒産しました。組合員の賃金は未払いのまま自己破産してしまいました。社長の岩田は借金の子返済のために会社の金を引きだし、その額は二億五〇〇〇万円以上になります。未払い賃金は一億七〇〇〇万円。

社長に倒産の責任を求めただけではなく三菱銀行にも責任をとるように求めています。三菱銀行は経営者に返済不能な融資をしたメインバンクです。ですから責任は重大だと思っています。利子だけで社長の年収の三倍にもなる融資をしていました。バブルのつけは三菱が払えと私たちは主張しています。

三菱は後一年もすると東京銀行と合併して世界一の銀行になるといふことです。三菱はグラフィカに倒産まで融資していたのではないのです。三菱のあとは日本信託が引き継ぐように融資をしていました。三菱銀行は第一抵当だから倒産をまっぴいねい、私たち社員は就職難のなか未払い賃金で放り出された。

私たちの争議は倒産争議なので破産管財人が絡んでいます。管財人がおとほけ管財人で団体交渉に応じてくれません。労働委員会に申し立て、三回目の審問に入っています。

分会の状況は、倒産争議とともに始まった。それまでは組合ができるような感じではありませんでした。賃金未払いが四カ月にも及んで組合をつくることになりました。「再建なき倒産争議は未払い賃金の獲得でしかない」と聞くんですけど、私たちは争議Ⅱ組合みたいなものですから、再建なき労働組合は未払い賃金の獲得しかないということになってしまいます。でもそうではないのではないかと。

社長は反省しない責任を転嫁するワンマン社長です。ワンマン社長のもとで労働者としての誇りも人権も向上心もふみにじられて、労働の価値を高める状況ではありませんでした。その時から組合の必要性はあったのではないかと思っています。そんなワンマン社長と対抗しようと思ったのは団結の力ではないかと思っています。未払い賃金だけではなくして団結の力を確認したい、再構築したいとみんなで話し合っています。

そのためにはもつと討議をしたい、討議のトレーニングをはじめました。団結して判断するというレベルではありませんでした。だけど、それではいけないのではないかと考えて、団結するには討議をしなければと考えて、討議といってもやり方もわからないので討議のトレーニングから始めようと、第一回はNHKのバラエティー評百科。分会内で討論して結論をだし、相談員の意見をきいて結論がゆらぐかどうか試してきました。最終的に弁護士の意見と比較しました。

グラフィカ分会は未払い賃金だけではなく、もう一つなにかつかもうと、もう一つ目的をさがしています。私は技術者としてやっていきたい。その職を脅かされたときに何一つ対抗策を知らないというそういう技術者にはなりたくありません。グラフィカ争議でなにかを得たいと思っています。

(K)

◇投稿◇

差別、宗教、オウム

差別問題と宗教問題について、私の意見をのべます。差別問題についての代表的な小説は、島村藤村の破戒、佳井すえさんの、橋のない川、かと思っています。この二つの小説について、差別とは何か、何が問題なのかを読者に理解と、認識を深めたよい作品だとする意見と、差別を肯定する作品であるとする、賛否両論があります。

私の主観では、同和問題を客観的に書いた作品かと思っています。この作品を部分的に読めば差別的であるとの解釈が成り立つかもしれませんが、作品を全体的に見て理解すべきかと思っています。

差別問題は、日本だけの問題だけではなく、世界中に起きている問題であると思っています。特にアメリカの黒人差別問題は、最たるものであると思います。差別は同和問題だけではなく、一般社会にもいっぱいあります。

私自身もそうですが、学歴の高い人、低い人、またどんな職業かによって評価してしまいます。ではどうすれば差別をなくすことができるのか、完全になくすことは無理かと思いますが、勤労者の立場に立った民主主義を徹底させることかと思っています。

次に宗教問題です。マルクスが「宗教はアヘンである」といったことは有名です。私は無神論者ではありませんが、神を信じていません。しかし、人間は皆弱い面があります。ですから神にすがれる気持ちを理解できますが、思想や宗教を絶対視して、信じざる生き方について私は疑問を抱いています。

オウム問題は、人間性を抹殺した宗教ですが、宗教ではなく暴力団であると思います。私は新聞やテレビ等で、評論家や文化人の人達が、どんなに主派な主張？を読んだり聞いたりしても、まてよ、ほんとうにそうなのか、私はちがうよと、いつもそうしています。一番大切なことは、自分の頭で考えて、自分自身の主張、意見をもつことが大切なことではないかと思っています。

(富山 実)

◇ 読者からのおたより ◇

敵（資本）とわれわれ 選挙に追われ誌代遅れてしまいました。最近思うことは、敵（資本）の方が我々よりずっと先を見ながら勉強もし運動をしているのでは、ということです。我々はそれ以上に勉強し粘り強く運動しなくてはと思うこの頃です。 （東京・K）

編集部より 敵（資本）は自由に儲ける条件が競争戦の激化で、きつくなっています。だから価値増殖の本能がそうさせるのでしよう。目的意識もった勉強が大事。

職場から再生する 毎日ご苦労さま。いつもご指導ありがとうございます。停滞している運動を職場から再生するため努力しています。これからもよろしく。 （岐阜・H）

編集部より 毎日がサリンとオウム。気がめいつてしまいます。職場の仲間の声を聞き、全力をつくし合いましようよ。

掲載ありがとうございます 「社会通信」発刊六百号おめでとうございます。また記念すべき六百号に小生の拙稿を掲載していただきありがとうございます。遅れましたが本代、パンフ代送ります。統一地方選、予想以上のひどさです。後半の地方選でどうであることや。我が銚子でも仲間二人を候補に擁立したたかっています。いろいろあるものの最後までがんばるつもりです。 （銚子・O）

編集部より 結果いかがでしたでしょうか。千葉の友人は「通ったけど、きつかった」と連絡くれました。いよいよ正念場。自己の信念を大切にがんばろうよ。

購読します 「通信」誌、定期購読を申し込みます。六ヶ月前納分、誌代お送りします。わざわざの見本誌ありがとうございます。 （神戸・K）

編集部より ご購読ありがとうございます。編集子ともすればマンネリがち、お気付きの点、足りない点等々のご批評よろしく。

上野さんの本送って 上野建一さんの「政界再編後を読む」をお送り下さい。おつりはカバンにして下さい。 （岡山・H）

編集部より ご注文ありがとうございます。岡山は選挙いかがでしょう。面白い時代、ご健闘を。護憲社会党勝利めざす 震災復興、護憲社会党勝利めざしてがんばっています。ご支援よろしく。 （兵庫加古川・F）

編集部より 兵庫のご苦勞たいへん。しかし兵庫はわれわれの機関車。選挙勝ちぬいていただかなくては。私どもも全力つくします。

若い仲間の奮闘に期待 最近、体調くずし気力も劣え、読書意欲もなくなっています。若いみなさんの変わらぬ情熱でよりよい社会を築くためのご奮闘を念願してやみません。若

（京都・M）

選挙結果に不安 統一地方選の結果にはますます危険を感じる。英雄待望の時代のあらわれか。社会に対しての不信の増大、自己に対しても不安定は未来、組織に対する無力感もちながらも、願望を何らかの形で表わしたのが今回の結果ではないだろうか。ヒトラーの時代がふと浮かぶのが思ひすごしでないような気がする。我が党（といえるかどうか）も空中分解か、止めようがこれまたない。あいかわらず大労組（労組にも値しない）との腐れ縁だけで貴重な日々を費やしている。いずれにしても議員諸氏の首もそう長くは胴とつながってはいないだろう。

（野田市・K）

「通信」六百号おめでとう 震災復興のあり方をめぐって新しい神戸をつくる活動的市民の結果が続いている。これらの多くの人々は今までどこに埋もれていたのかと思うほど。だが実はそうではなくて、我々は相互に分断されていただけなのだろう。孤立して特化していた小さな運動が、いま交流によって大きな流れをつくり出そうとしている。我々の「狭さ」を打ち破ってゆくチャンスでもあるし、この中で鍛えられて我々は失いかけていた自信をとりもどさねばならない。神戸に始まっている新しい運動を全国につなぐ窓としての「社会通信」、六百号おめでとう。

(加古川・F)

毛利孝雄著『山びこのうた』のすすめ

一九九五年四月はじめのことですが、仕事から帰ると古くからの友人である、毛利孝雄さんから一冊の本が贈られてきました。早速、その本「山びこのうた」を夕食と入浴を除いて午後十一時半頃によく読み終えました。

「千代田山の会」「燈台」を通じて既に読んでいた部分もありましたが、このようにキチンと整理された本として改めて読ませていただき率直に感動致しました。これが読後の第一印象でした。

岩手県「岩泉小学校夏節冬季分校」での代用教員・四カ月間の貴重な経験をもつ懐かしい思い出ではなく、「戦後史の断面」と位置づけて鋭く問いかけている「山びこのうた」……この本を全国・北海道の多くの人々に読みたいとの思いでいっばいです。そういう私の気持ちをこめて、毛利さんに十冊注文したところ直ぐに送ってくれました。

感動的に読んだ「山びこのうた」を全国の皆さんに詳しく紹介したいとの思いですが、十分に伝えることが出来ないことをお許し下さい。

毛利孝雄さんは、「山びこのうた」について「多少過去へのこだわりの強い性格と、その中から今を生きる勇気を得ようというための、全くの個人的事情の冊子です」として、「あとがき」に、「改めて『夏節冬季分校をめぐる人びと』によって、生かされてきた自分」、
「人間には誰にも、その存在自体の中に本来、人を激励し生きる勇気を沸き立たせる力が備わっている」、そんなことを考えさせられています。私自身もそのような存在として生きることができたらと思うのですが……。」と書かれています。

全国の皆さんに、是非とも「山びこのうた」をお読み下さることをお願い申し上げます。最後に、「社会通信」の六〇〇号に心より祝意を表するとともに、全国の「社会通信」読者の皆さん！三月から四月にかけての統一地方選挙を一生懸命に闘い抜かれた皆さんに学び、私も一ミリ、一センチでも一歩前進していくつもりです。

(札幌・松村)

※「山びこのうた」九五年二月十一日発行。

〈連絡先〉埼玉県上福岡市北野一―八―六 毛利孝雄〈領価〉四〇〇円。